

第6章 へき地・小規模学校教育

郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる児童生徒を育てる。

1 地域の特性や少人数のよさを生かした教育課程を編成する。

- (1) 地域への愛着をもち、郷土を愛する心情が育つよう、自然・文化・伝統等、地域のよさに親しむことのできる多様な学習活動を指導計画に位置付ける。
- (2) 社会性やたくましが育つよう、近隣の学校や環境の異なる学校との集合学習や交流学习を計画する。
- (3) 複式学級の特質を生かし、学年別の指導や単元指導を適切に位置付け、2か年以上を見通した指導計画を作成する。

2 地域の特性や少人数のよさを生かし、個に応じた指導の充実に努める。

- (1) 児童生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう、自己選択や自己決定の場を多く設定し、教師の「待つ姿勢」を大切にしたい指導を行う。
- (2) 児童生徒同士が関わり合う機会を多くもつことができる環境を生かし、一人一人の感じ方や考え方を引き出す学習活動を設定して、互いのよい点や成長を認め合う人間関係を築き、自己有用感を高めるようにする。
- (3) 学習のねらいや一人一人の学習状況に応じて学習形態を工夫し、学年の枠を超えた活動、保護者や地域の人々の協力を得て行う活動等を効果的に展開する。
 - ア 合同学習や集合学習、交流学习を積極的に取り入れ、異学年や他校の児童生徒と関わる中で新たな見方や考え方を広げ、表現力を高めるようにする。
 - イ 複式学級においては、それぞれの学年のねらいを明確にし、直接指導と間接指導の組合せを工夫したり、共通の思考場面を適切に位置付けたりするなど、指導の過程を工夫する。

3 地域の特性や一人一人のよさが生きている評価を工夫し、指導に生かす。

- (1) 自他のよさや地域の特性に気付かせるとともに、指導上の課題等が把握できるよう、交流活動での自己評価や相互評価、地域の人々による評価を工夫する。
- (2) 活動の記録や学習カードを累積し、児童生徒が自らの取組を見直すことができるようにする。また、全教職員が学年の枠を超えて一人一人のよさや可能性を多面的に捉えるようにする。
- (3) 複式学級では、学年の組合せや児童生徒数の推移、指導の評価を踏まえて指導計画を見直す。単元指導を行う場合は、学年別の評価規準に照らして学習状況の評価し、一人一人の指導に生かす。

少人数を生かす学習形態

合同学習

一つの学校で3学年以上（単式の学級では2学級以上）の児童生徒で学習集団を編成し、指導を行うこと。

集合学習

近隣の2校以上の児童生徒を一か所に集めて、各学校の教師の協力によって指導を行うこと。※

交流学习

学校規模や生活環境の異なる学校同士が姉妹校的な関係を結び、それぞれの学校独自では体験できない学習や生活を重視して指導を行うこと。※

※については、ICTの活用によって、オンラインで実施することも考えられる。

複式学級の指導の工夫

直接指導

児童生徒が教師と直接対面して学習を進めること。

間接指導

教師が一つの学年を直接指導している間に、他の学年の児童生徒が、個人又は集団で、その時のねらいに沿った学習を進めること。

【ガイド学習】

ガイド役の児童生徒が教師の指導の下、学習進行計画に沿ってリードしながら学習すること。

単元指導

複式学級において、学年別の指導の問題点を補うために実践化されてきた指導法。

同じ学習時間に、同じ教科について、異なった学年の児童生徒が、同じ単元計画の下に学習を進めること。

